

日本経済新聞

発行所 日本経済新聞社
 東京本社 〒100-66(03)3270-0251
 東京都千代田区大手町1-9-5
 振替口座 00130-7-555番
 大阪本社 〒540(06)943-7111
 大阪府中央区大手前1-1-1
 振替口座 00920-1-73217番
 名古屋支社 〒460(052)322-2561
 名古屋市中区正木2-3-1
 振替口座 00830-6-6149番
 西部支社 〒812(092)473-3300
 福岡市博多区博多駅東2-16-1
 振替口座 01710-1-1248番
 札幌支社 〒060(011)281-3211
 札幌市中央区北1条西7-3

© 日本経済新聞社 1995

小型複合加工機を開発

新興セルビック など4社 独自技術を融合

プレス機・成型機を一体化

成型機器メーカーの新興セルビック(東京竹内宏社長、03・3785・7800)など中小企業4社は共同で、プレス加工機と射出成型機で構成する小型複合加工機の試作機を開発した。今春から量産タイプの開発に着手、九六年をメドに発売する。複合加工機は複数の加工工程を一体化し部品の搬送工程を省略する次世代型の加工機械。大手機械メーカーが開発に着手し始めているが、中小メーカーではまだ珍しい。今回のように独自の技術を持ち合う形で、開発競争に参入するケースが増えそうだ。

試作機を開発したのは新興セルビック、型開閉機構開発のインテック研究所、金型メーカーの阿部工務所、自動車部品メーカーのベッセイ。四社は異業種団体「協同組合アイデア工房」を結成して、昨年夏から「融合開発促進事業」の補助金を約

大きさに抑えた。

マイクロスリットなどは従来①フィルム状に巻かれた金属素材をプレス成型②部品ごとに裁断③社内外の樹脂部品部門に搬送④樹脂成型・組み立てといった工程を踏む。複合加工機を使用すればこれらの工程を一つの機械内でこなせるので物流負担が省けるほか、部品の精度向上も図れる。

キャスター付きで簡単に移動できるので、生産ラインの変更にも柔軟に対応できる。今後はさらに小型化を図り、七百万円程度の価格設定で売り出す計画。製造業の海外への生産移管が進む中で、厳しい価格競争にさらされている国内の電子部品メーカーを中心に売込む。複合加工機のアイデアは約五十人の中小企業のオーナーや研究者などで構成する任意団体

「アイデア工房」から生まれたもの。九三年十月にスクリーン部分を図す形にすることで従

来機種の五分の一程度に小型化した射出成型機「Bevel 20」の開発に成功、この時にプレス機との複合加工機を開発ニーズが同工場の会員から浮上したという。

アイデア工房はかねてからの作りの物流の排除を開発コンセプトの一つとして掲げている。「複合化加工機の開発は

その目的に合致している。今後もアイデアを集めながら共同で取り組んでいきたい」(竹内宏 新興セルビック社長)としている。